

## ESG戦略

# オリンパスのマテリアリティ

オリンパスは、誠実で透明性のある企業であり続けるために、規制当局やステークホルダーと協力して、強固で持続的な組織の構築に努め、ヘルスケア業界およびESGを主導する企業になるべく、「Our Purpose 私たちの存在意義」である「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」に貢献していくことを目指してまいります。ESGの推進は、新経営戦略の中でも重要な取り組み項目の一つとして位置づけており、これまで以上にESG戦略と経営戦略・事業戦略・機能戦略との親和性・一貫性を強化してまいります。

## オリンパスのマテリアリティ

新経営戦略の策定と連動して、ESG戦略の見直しと調整を行いました。マテリアリティの見直しにおいては、新たにステークホルダーの皆さまのご意見をお聞きし、また社会の期待値・要求事項やメドテック業界における動向、サステナビリティの観点でのリスクと機会の分析などを踏まえ、「6つの重要領域 (Focus Area)」と、その下に「25項目の重要課題 (Materiality Topics)」を特定しました\*1。この「25項目の重要課題」を特定するプロセスの中で、「ステークホルダーにとっての重要性」と「オリンパスの事業へのインパクト (オリンパスにとっての重要度)」の2つの軸を用いてマッピングを行い、「トッププライオリティ」「ハイプライオリティ」「その他」の3段階に優先順位付けをしています。特に重要度の高いトッププライオリティに位置づけたマテリアリティ項目についてはKPIを設定しており、達成に向けた進捗を管理していきます。また、ESG委員会や取締役会等において、進捗状況や新たな取り組みについて議論してまいります。



\*1 従来の「6つのESG領域」と「5つの重要課題 (マテリアリティ)」を、「6つの重要領域 (Focus Area)」に再編しました。

## マテリアリティ・マトリックス

ステークホルダーへの重要度	① トッププライオリティ (8項目)		② ハイプライオリティ (9項目)	
	High	Mid	High	Mid
High	<ul style="list-style-type: none"> <li>H 事業活動倫理とコンプライアンスの徹底遵守</li> <li>H サプライチェーン管理上における人権尊重へのコミットメント</li> <li>T Scope1/2カテゴリでの脱炭素への取り組み</li> <li>T Scope3カテゴリでの脱炭素への取り組み</li> <li>H 水資源と廃棄物の適切な管理</li> <li>H 気候変動リスクへの対応</li> <li>T コーポレートガバナンスと情報開示の透明性確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>T 医療アクセスおよび医療公平性改善への貢献</li> <li>H より良い医療効果を実現するイノベーションへの取り組み</li> <li>T 製品、サービス、ソリューションの品質と安全性の確保</li> <li>T サプライチェーンのリスク軽減と耐性の確保</li> <li>H 労働安全衛生の確保と人権尊重への取り組み</li> <li>H 従業員の能力開発とエンゲージメントの向上</li> <li>T ダイバーシティ、エクイティ&amp;インクルージョン</li> <li>T 循環型社会実現へ貢献する製品ライフサイクル管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H 早期発見・早期治療の重要性に対する認知度向上への取り組み</li> <li>H プライバシー、情報セキュリティ、サイバーセキュリティの保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H 早期発見・早期治療の重要性に対する認知度向上への取り組み</li> <li>H プライバシー、情報セキュリティ、サイバーセキュリティの保全</li> </ul>
Mid	<ul style="list-style-type: none"> <li>倫理性・誠実性に基づいたマーケティング活動</li> <li>環境関連の情報開示の透明性確保</li> <li>多様なステークホルダーとの対話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスク管理・危機管理の強化とリスク認識を意欲した企業文化の醸成</li> <li>取締役会における多様性の確保</li> </ul>		
Low	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業市民活動および慈善活動</li> <li>税の透明性</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>製造技術改善に向けたイノベーションへの取り組み</li> </ul>	
	Low	Mid	High	High

当社事業への影響度

## ESGの推進体制

ESGへの取り組みを強化するため、2023年3月期にグループレベルでサステナビリティ戦略推進体制を再検討し、2023年4月に新たなサステナビリティ・ガバナンス体制を構築しました。新しいガバナンス体制では、ESG担当役員をオーナーとし、各事業・各機能部門の責任者などをメンバーとする「ESG委員会」を設置しました。ESG委員会は、サステナビリティ戦略の遂行、マテリアリティに関する重要施策の審議、目標に対する進捗のモニタリングなどを実施しています。さらに、ESG委員会の傘下に環境や人権などテーマ別のワーキンググループを設け、機能横断的に取り組む必要のある施策の検討や情報共有を行っています。ESG担当役員はグループ経営執行会議と取締役会に対して、サステナビリティ戦略の実施状況や活動の成果・課題などを報告します。グループ経営執行会議と取締役会の指示・助言のもと、適切にサステナビリティ戦略を実行しています。



## Sustainable Society: 持続可能な開発目標 (SDGs) への貢献

オリンパスは、事業活動を通じて世界が抱える環境・社会課題の解決に取り組み、SDGs\*2が目指す持続可能な社会の実現に貢献していきます。そのために、自社の事業活動とSDGsとの関連性を紐解き、自社の事業活動と関わりが深い13の目標を特定しました。なかでも、事業を通じて、最も貢献度の高いSDGsは目標3「すべての人に健康と福祉を」

に健康と福祉を」であり、グローバル・メドテックカンパニーとして「健康」を中心に、複数の社会課題の解決に貢献していきます。

\*2 SDGs (Sustainable Development Goals) : 2030年までに持続可能な世界を実現するために、国連によって定められた国際社会共通の目標。

## オリンパスとSDGsとの関連性



### 「3. すべての人に健康と福祉を」への貢献

#### オリンパスは、特に「3. すべての人に健康と福祉を」の達成に貢献します

- 目標3の貢献に関連する主なマテリアリティ
- 医療アクセスおよび医療公平性改善への貢献
    - ・医療公平性改善への貢献
    - ・医療従事者へのトレーニング機会・技術向上機会の提供
    - ・高度医療製品へのアクセシビリティ向上に向けた取り組み
  - より良い医療効果を実現するイノベーションへの取り組み
  - 早期発見・早期治療の重要性に対する認知度向上への取り組み
  - 健全な組織文化

6つの重要領域 (Focus Area)

**1** 医療機会の幅広い提供  
およびアウトカムの向上



医療分野は、当社が最も強みを発揮できる社会貢献の領域と認識しています。より高い医療成果につながるイノベティブな製品の提供、医療従事者へのトレーニング機会の提供などを通じて社会への貢献を目指します。

25項目の重要課題

トッププライオリティ

- 医療アクセスおよび医療公平性改善への貢献
- ハイプライオリティ
- より良い医療効果を実現するイノベーションへの取り組み
- 早期発見・早期治療の重要性に対する認知度向上への取り組み

その他

- 企業市民活動および慈善活動

KPI

**+20%**

対象の新興国・地域におけるCRC\*1関連のトレーニング開催数

**+20%**

医療従事者を対象としたCRC\*1関連のオンライン/ハイブリッド型トレーニング開催数

関連情報

統合レポート2023 See page 64

サステナビリティ:  
医療水準の向上  
https://www.olympus.co.jp/csr/social/medical-standards/

SDGs



\*1 CRC:Colorectal cancer(大腸がん)

**2** コンプライアンスおよび  
製品の品質安全性への注力



医療機器を提供する企業として、最優先すべきは「患者さんの安全」です。腐敗防止などのコンプライアンス遵守および、製品の品質安全性確保のための各国法規制に確実に適合するように努めています。

25項目の重要課題

トッププライオリティ

- 製品、サービス、ソリューションの品質と安全性の確保
- ハイプライオリティ
- 事業活動倫理とコンプライアンスの徹底遵守
- プライバシー、情報セキュリティ、サイバーセキュリティの保全

その他

- 税の透明性
- 倫理性・誠実性に基づいたマーケティング活動
- リスク管理・危機管理の強化とリスク認識を意欲した企業文化の醸成
- 製造技術改善に向けたイノベーションへの取り組み

KPI

適時適切なESG情報開示

(SASB基準に沿った開示)

関連情報

統合レポート2023 See page 16, 99

サステナビリティ:  
コンプライアンス  
https://www.olympus.co.jp/csr/governance/compliance/  
製品責任  
https://www.olympus.co.jp/csr/social/product-responsibility/

SDGs



**3** 責任ある  
サプライチェーンの推進



医療機器の安定的な提供は、社会における医療の安定的供給に不可欠です。製品の安定的提供の責任を果たすと同時に、サプライヤーとともに、環境や人権などの社会課題にも取り組んでいきます。

25項目の重要課題

トッププライオリティ

- サプライチェーンのリスク軽減と耐性の確保
- ハイプライオリティ
- サプライチェーン管理上における人権尊重へのコミットメント

KPI

年次評価／モニタリング

サプライチェーンにおけるリスク評価・モニタリングの実施

関連情報

統合レポート2023 See page 81

サステナビリティ:  
調達  
https://www.olympus.co.jp/csr/social/procurement/

SDGs



**4** 健やかな組織文化



当社が目指す健やかな組織文化とは「私たちの存在意義を実現するため、従業員一人ひとりがベストな状態でパフォーマンスを発揮できる文化」と定義し、その実現に向けたさまざまな施策に取り組んでいます。

25項目の重要課題

トッププライオリティ

- ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン
- ハイプライオリティ
- 従業員の能力開発とエンゲージメントの向上
- 労働安全衛生の確保と人権尊重への取り組み

KPI

**30%**

グローバルなマネジメントポジションにおける女性の割合。2028年3月期までに実現

**100%**

日本\*2における男性社員の育児休業等取得率。2026年3月期までに実現

関連情報

統合レポート2023 See page 72

サステナビリティ:  
ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン  
https://www.olympus.co.jp/csr/social/diversity/

SDGs



\*2 オリンパス株式会社が対象

**5** 社会と協調した脱炭素・  
循環型社会実現への貢献



気候変動は地球環境を脅かす重大な課題であるとともに、当社の事業活動にも影響をおよぼす課題であると認識しています。今後カーボンニュートラルの達成に向けて、各種取り組みを推進していきます。

25項目の重要課題

トッププライオリティ

- Scope1/2カテゴリでの脱炭素への取り組み
- Scope3カテゴリでの脱炭素への取り組み
- 循環型社会実現へ貢献する製品ライフサイクル管理
- ハイプライオリティ
- 水資源と廃棄物の適切な管理
- 気候変動リスクへの対応
- その他
- 環境関連の情報開示の透明性確保

KPI

**ネットゼロ**

2040年までにScope1/2/3の温室効果ガス排出量を実質ゼロに

カーボンニュートラル

2030年までに自社事業所からのCO<sub>2</sub>排出量(Scope1/2)を実質ゼロに

関連情報

統合レポート2023 See page 78

サステナビリティ:  
環境  
https://www.olympus.co.jp/csr/environment/

SDGs



**6** コーポレートガバナンス



当社は長年にわたりステークホルダーの皆さまから信頼される企業であり続けるために、コーポレートガバナンスの強化に注力してきました。当社がサステナブルであるために極めて重要な課題と認識し、今後も継続して強化に努めます。

25項目の重要課題

トッププライオリティ

- コーポレートガバナンスと情報開示の透明性確保
- その他
- 多様なステークホルダーとの対話
- 取締役会における多様性の確保

KPI

エンタープライズ  
リスクマネジメント

一貫性・継続性を確保したグローバルでの実施

関連情報

統合レポート2023 See page 84

サステナビリティ:  
コーポレートガバナンス  
https://www.olympus.co.jp/company/governance/

SDGs

